

会 議 概 要 書

審議会等の名称	平成30年度 第2回磐田市子ども・子育て会議
担当部課名	こども部子育て支援課
会議の開催日時	平成31年3月12日(火) 15:00~16:30
会議の開催場所	磐田市 ひと・ほんの庭にこっと 2階 研修室
出席者(職・氏名)	<p>委員：市川真実、井上紗矢香、伊藤辰義、清水聖也、加藤仁敏、川崎博世、勝又みさ子、原田征己、松下尚子、漁田俊子、田丸恭子 (敬称略、11名) (欠席：望月沙登美委員)</p> <p>〈事務局〉</p> <p>こども部 部長 山内秋人</p> <p>教育部 児童青少年政策室 室長 加藤計吾 主任 三谷昌史</p> <p>こども部 幼稚園保育園課 課長 鈴木都実世 幼保運営G長 寺田尚人</p> <p>ひと・ほんの庭にこっと 館長補佐 村川実加</p> <p>子育て支援課 課長 高比良紀恵子</p> <p>課長補佐兼発達支援室長 金子和由</p> <p>母子保健G G長 春田恵理子</p> <p>子育て支援G G長 伊藤修一</p> <p>主任 鳥居良之</p> <p>主事 曾布川実津季</p>
議 題	<p>(1)磐田市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について</p> <p>(2)磐田市子ども・子育て支援事業計画策定のためのアンケート調査結果について</p>
配付資料等の件名	<p>資料1 磐田市 子ども・子育て支援行動計画 施策評価シート</p> <p>資料2 平成30年度・平成31年度子ども・子育て支援事業資料(5枚)</p> <p>資料3 磐田市 子ども・子育て支援事業計画策定のためのアンケート調査結果報告書</p>
<p>【会議概要】</p> <p>1. 開会</p> <p>2. 会長あいさつ</p> <p>3. 議題説明・意見交換</p> <p>(1)磐田市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について</p> <p>〈事務局より、資料1・2について説明〉</p>	

委員より

○児童虐待・民生委員・児童委員との協力体制について

- ・子どもに関する悲惨な事件や事故のニュースを耳にするなかで、民生委員・児童委員としてできることを考え、提案してきているが、個人情報保護の観点などから、実現が難しいこともある。
- ・行政の協力者という立場である民生委員・児童委員をうまく活用し、支援に繋げていってもらえればと考えている。

○放課後児童クラブについて

- ・働くお母さんにとって、放課後児童クラブは本当に重要なもの。整備は進んできているものの、まだまだ足りていないというのが現状であると思う。
- ・幼稚園・保育園・こども園内の放課後児童クラブについても増えていくと良いと思う。
- ・4月から子どもが放課後児童クラブに入れることが決まり、ほっとしている。
- ・放課後児童クラブの施設が古い印象を受けたので、新しく整備されるとよいと思う。
- ・指導員2名で、小学校1年生もいるなかでたくさんの子どもをみるのはとても大変なことだと思う。

○相談支援・児童虐待について

- ・自ら相談には行かないが、保育園や事業所などの職員からみて心配な子どもや家庭をいかにして支援に繋げていくかが課題であると思う。
- ・児童虐待について、効果的な情報共有のために、子どもに関わる機関がもっている情報を一元管理する機関があると良いのではないかと思う。

○学校遊具の整備について

- ・公園の遊具の整備だけでなく、子どもが外で楽しく遊べる学校の遊具の整備をしてもらいたい。
具体的には、ターザンロープなど。

○相談体制の充実について

- ・子育てに悩み、自ら相談に出向いた際に、やむを得ず子どもを連れて行ったところ、対応した職員から「子どもの前でそんなことを言わないように」と言われてしまい、自宅に引きこもりがちになってしまったことがあった。
- ・相談員の役割は非常に大きいと感じている。相談員の質の向上や、相談を受ける環境の整備などに取り組んでもらいたい。
- ・相談体制の充実は必要である一方で、保育士・幼稚園教諭は非常に業務量が多く、保護者対応に時間を割くことが難しいというのが現状であると思う。

(2)磐田市子ども・子育て支援事業計画策定のためのアンケート調査結果について（資料3参照）

〈事務局より、アンケート調査結果について説明〉

委員より

○就労している方の子どもを預かる施設の整備について

- ・ 3歳からの入園がしづらいために、0歳から公立の園に入園させておかなければという母親の話をきく。3歳からの受け入れ枠を拡大し、事業所内保育所の枠を活用してもらいたい。
- ・ 母親がパートタイムで就労したいと考えていても、就労時間が短いために保育園に入れなかったということがあった。
- ・ シングルマザーも増えているため、保育園や放課後児童クラブの整備は重要である。

○アンケート結果全体について

- ・ このボリュームのアンケートの回収率が63.2%というのは、非常に高い回答率であると思う。
- ・ 回答率の高さは、子育てをしている家庭の意見や訴えが多くあるということである。市は、調査結果を真摯に受け止め、施策の検討をしていってもらいたい。

○相談体制の充実について

- ・ 以前、自身の育ってきた環境が原因で、仕事が立ち行かなくなってしまった際に、カウンセリングを受けた。カウンセリングを受け、自身の心の傷をケアしたことで、今子育てができていると感じている。
- ・ 虐待をしてしまう親は悪い、ということが強調されて報道されているが、親の相談に乗ってくれる優しい存在が必要であると思う。
- ・ 相談をした際に怒られてしまうと相談しにくくなったり、本当のことを言いづらくなったりしてしまうので、相談の受け手は話をしやすい存在であることが重要だと思う。

○民営化について

- ・ 公立園の民営化の際には委託する企業をしっかりと見極めてもらいたい。

○相談員の人員配置について

- ・ 相談しやすい環境の整備や相談員の質の向上は必要なことだが、相談を受ける側の人員が余裕をもって配置されているかが心配。
- ・ 市民としても、余裕をもった人員配置を求めていくことが必要だと思う。

5. 事務連絡

- ・ 来年度の会議は、第二期計画策定の年度であるため、年間5回程度の開催を予定している。

6. こども部長あいさつ

7. 閉会